



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2019年7月1日
7月号・第210号
奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



＜西池での水生生物調査＞



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	自然観察会（6月17日）・報告	10
Monthly Repo. ならやま	2	ならやま投句箱	11
私のふるさと	3	豆知識	12
里山の今・鳥シリーズ	4・5	パトロールグループの生い立ち	13
自然観察会（6月3日）・報告	6	ならやまプロジェクト	14
月例研修会（6月4日）・報告	7	行事案内1・字遊字感	15
佐保台小学校田植え・報告	8	行事案内2	16
自然教室（佐保台・育英）・報告	9	幹事会報告・編集後記	17

壮春 力歩

プレゼン奮闘記

会長 鈴木 末一

スマホがバイブし着信を知らせる。都市緑化機構の小松さんからである。花王みんなの森づくり目録贈呈式場で、活動の成果などについてプレゼンをせよとのことである。2年前に式に出席した時、確か3年目を迎える団体の代表の方が発表されていたのを思い出した。そして、その時に初年度を迎える団体が21であったかと。指名を受けたからには、ご期待に添わなければならない。お受けする旨を丁重にお伝えした。

東京のメトロは乗り継ぎが大変だ。2年前の時は、乗り継ぎ案内の情報に従った。しかし、一旦駅の改札口を出てアーケード街を通り抜け、乗り継ぎ路線の同じ駅名の改札口へ。しかもそこには乗り継ぎ専用改札口の表示が……。今年は乗り継ぎ路線を変更した甲斐(?)があったのか、割合スムーズに目的の駅に到着。ひたすら地上への出口を目指す。目の前に花王本社ビルがそびえ立っている。これでひと安心だ。昼食休憩の後、受付へと向かう。担当の方に案内されて会場に入る。

目録贈呈式は定刻に開会され、(公財)都市緑化機構理事長輿水氏と花王執行役員石渡氏の挨拶があり、いよいよ3年目の活動団体報告だ。森づくり活動分野と環境教育活動分野合わせて105件の応募の中から選ばれた21件を代表して港北ニュータウン緑の会と本会が、それぞれ15分間のプレゼンを行った。

プレゼンの依頼を受けてから、どのように話を展開していくのが良いだろうかと色々と考えてみた。取り繕ったりしてはいけない。当然のことながらありのままを話すべきだろう。とはいえストーリーはどう展開を……。今まで色々な会合用に作ったプレゼンを再度点検しながら、会の概要と歩み、活動の理念、運営体制、活動の成果と課題など、基本的な話の筋を組み立てていった。

プレゼンのポイントとして、初年度の団体さんに参考となる話を展開すること。加えて、この目

録贈呈式は、花王株にとっては、みんなの森づくりという事業の評価の場ともなるわけだから、スポンサー側が、「ああ、やっぱりこの事業を継続してきてよかった」「がんばっている地域の人たちを支援する意義深い取り組みなんだ」「社会を、地域を、そして環境をよくする取り組みができているんだ」と確信できるような話をしてもらいたい、との期待感に是非とも応えなければならない。そして、例の「志金」の話も忘れてはなるまい。多くの団体が、会員募集に苦戦されているなか、本会では、会員をどのように集めているのか、そしてこれだけの大きな組織を運営するためのコツはなにかなど……。

また、いずこの組織でも、役割を分担してできるだけ個人の負担が減るようにと配慮してはいるものの、どうしても一人のリーダーが引っ張っていくようになり、そのリーダーに多くを依存する形になってしまっている。どうしたら多くの会員に会の運営に積極的にかかわってもらえるのか、コツや工夫している点など……。考えるほどポイントとなる事柄が増えてくる。だからと言って、あまりにも盛り沢山では、焦点ぼけしないだろうか、そんなことも脳裏に浮かぶ日々が続いた。

さて、本番だ。話が佳境を迎えたころ、「あと3分」「あと1分」の合図。うまく話をまとめなければならない。秒針だけが確実に時を刻む。やや時間がオーバーしたかもしれない。だが、自己採点では70点ぐらいかな。

続いて初年度の17団体が、各6分間の発表。どの団体も、各地域の風土と植生などを踏まえ、間伐や植樹方法を決めていること。子どもたちや市民が集える自然体験の場としての森の活用では、自由な発想で自然とかわり学ぶ場にする目新しい事例もあり、大いに参考になった。

大役をなんとか果たすことができた安堵感とともに、早くも、次の機会には、こんなふうにとの思いも……。

次週は、佐保台小学校5年生の田植え体験実習の予定だ。本会にとっては大切で大きな行事。子供たちの歓声が響くならやまは、最も鮮烈な「みんなの森」だ。

Monthly Repo. **ならやま**

八木 順一

5月23日(木) 活動 晴れ 81名+4名

真夏の暑さだ。休憩や水分を十分取ることが必要だ。打ち合わせではこういった注意喚起の他、総会の報告や図録が新聞で報じられた件などが話題に上る。テント内の整備も順調に進む。里山Gは、枯死木の伐採や楢木本伏せ準備、エコGは野菜の収穫やナスなどの支柱立て、そして景観Gは実りの森の草刈りを行う。またビオ班は水生生物調査、花班は花畑の草取りや寒冷紗張り、パトGは1コースのパトロールと丸太階段の杭うちを行う。その他、果樹班はグミの実を収穫する。

5月30日(木) 活動 晴れ 78名+1名

暑い湿度も低く、作業もはかどる。打ち合わせでは新副会長任命の件や各地から照会が相次いでいる図録の件、そして熱中症防止に関わって緊急カード整備のお願い等が報告・連絡される。健康の保持・管理には万全を図りたい。県から1名来訪。カシナガの被害の終息状況の調査だという。里山Gは枯死木の伐倒・処理、エコGは野菜の支柱立てや追肥やり、そして景観GはBC近辺の草刈りを行う。またビオ班は池周辺の草刈りやザリガニの駆除、花班は花畑の草取りと柵づくり、パトGは観察路階段の補修と2コースのパトロールに出る。その他、果樹班はグミの収穫を行う。

6月6日(木) 活動 晴れ 75名+4名

夏時間開始。8時から活動に入るGもある。暑さ故の、健康面や安全面への配慮や気遣いが欠か



せない。協働活動ではシイタケの楢木の本伏せの他自転車道の草刈り、そして賄い備品の移動

と多岐にわたるが、作業も順調に終了。打ち合わせでは救急講習会の案内等が連絡され、忙しい。会長、副会長一名が花王の助成金の件で東京に出張する。里山Gは里山整備と薪材の作製、エコGは田植え準備や野菜などへのネット張り、景観Gは自転車道の草刈りを行う。またビオ班は近大生とともに橋の架け替えとザリガニの駆除、花班は種まきと畑の草取り、そしてパトGはテントの移動を実施。その他、果樹班はグミの収穫と果樹への水やりに取り組む。

6月13日(木) 活動 晴れ 72名+32名

佐保台小児童の田植え。20名の児童が挑む。引率者の他、近辺の平城中の取材学習の生徒、TV局や新聞社、県や見学者らが来訪し、にぎやかだ。打ち合わせではこの件の他、来週の感謝祭の連絡などが主なものになる。里山Gは竹藪の下草刈りや薪割り、エコGはジャガイモ掘りを中心に、そして景観Gは自転車道の整備を行う。またビオ班は水生生物調査、花班は花畑の草引きと百日草の移植、パトGは丸太階段の補修。加えて果樹班はウメの収穫に取り組む



6月20日(木) 活動 晴れ 78名+2名

春の感謝祭。ジャガイモがたくさん採れた。12時には祭りも始まり、準備されたカレーやてんぷらなどを口いっぱい頬張る。至福の時だ。打ち合わせではこの他、新聞各社の図録報道、そして暑さの中での体調管理のお願いなどが連絡される。県から1名、見学者1名来訪。里山Gは里山林の整備に薪割り、エコGは感謝祭準備、そして景観GはBCと佐保自然の森の草刈りを行う。またビオ班は池の整備、花班は花の撤去と移植、パトGは4コースのパトロールと丸太階段の補修を行う。その他果樹班はブルーベリーの除草に取り組む

私のふるさと

◆私の第二のふるさと



三谷 幸代

私は生まれも育ちも大阪市です。ある日突然、30年前に両親とオーストラリアのゴールドコーストに移住することになりました。3人とも英語も話せず、知り合いもなく、移住時は日本人も住んでいる方が少なかったので教えてもらう人もいませんでした。予約、約束しても遅れることは当たり前、すっぱかされることも多々あります。

風呂の業者が「また明日！」と言って帰っていったから2週間来なかった事もあります。修理屋に出しても直らないことは普通です。

オーストラリア人は、なんでもYES、NOをはっきり言い、言いたい事を言うので、これに慣れるのにかなり苦労しました。

でも、オーストラリアの自然は豊かで、家の裏は運河で外海とつながっており、肉を餌に大きな黒鯛を釣ったり、マッドクラブという泥カニも捕れ、夕飯にしたり、ボラを捕ってカラスミを作ったりもしました。たまには大きなサメが運河に入ってくることもあり、噛まれた事件もありました。

私は夕方になるとほぼ毎日、カモとペリカンに餌をあげていました。カモは30匹くらいいて、お知り合いのおばあちゃんがそれを見て「こんなにたくさんのカモがいるんやから1匹くらいネギを背たろうて『どうぞ私を食べてください』と言わんかね」と言いました。するとビックリです。次の日、あれだけいっぱい毎日我が家に来ていたカモが1匹も来なくなりました。日本語が分かったみたいです。



私はバーレーヘッドというビーチの横にある岬に暇があればよく行っていました。そこではサーフィンの世界大会が行われます。海の色もきれいで、ゴールドコーストの景色が一望に見られます。たまにイルカが見えたり、季節によっては遠くにザトウクジラも見えたりします。そこに敷物と本と食べ物を持っていき、ゴロゴロ、ゴロゴロして過ごしていました。私はその場所が大好きです。

そこには無料のBBQ用の電気コンロの鉄板もあるので、両親と、おかずをアルミホイルの容器に入れて温めたり焼いたりして景色を見ながらご飯を食べていました。とても気持ちいいです。どんな食べ物でもおいしく感じ、「食べ過ぎてしまうな」と言って笑っていました。

20年前、私だけ日本に帰国しました。オーストラリアの習慣になれた私は、今度はあいまいな表現の日本の習慣に苦戦していました。帰って来からも毎年オーストラリアに行っています。私の感覚では、海外に「遊びに行く」って感じは全く無く、両親も居るので「里帰り」って感じです。

両親も高齢になりました。4年前に母が圧迫骨折になり、やはり遠いのですぐに駆け付けることもできず、大変でした。体はすっかり良くなったのですが、両親も日本に帰ることにしました。2～3年のうちに日本に引き揚げてきます。

大変な事はいっぱいありました。でも、日本で味わえない体験も経験もいっぱいさせてもらいました。言葉に言い表せないぐらい私には特別な場所です。両親が日本に居るのはうれしいのですが、私の第二のふるさとが無くなってしまふ感じで、寂しい思いです。



里山グループ

◆ シイタケ栽培

平田 範光

6月6日の協働活動日に里山グループだけでなく他のグループと共同で、シイタケ楢木の本伏せを行いました。

今年は楢木の本数(約330本)が多いこと(例年は250~300本ぐらい)、あわせて楢木の太さもかなり太かったが、協働活動日だったので作業参加者も多くて速く済ませることができた。やはり数の力はすごいことを再認識しました。1年半か2年後が楽しみです。

今年はシイタケ栽培以外に他品種のヒラタケ栽培を始めてみました。通常、ならやまでは、シイタケ楢木の材料としてコナラを利用しているが、ヒラタケ用の楢木としてソヨゴの木を利用してみました。

ソヨゴは腐りやすいのでコナラほど長持ちはしないが、普通はまき材にもならず、里山林内で朽ちるのを待つだけなのを再利用してみました。また、ヒラタケにソヨゴの木を利用した場合にはコナラに比べ菌のまわりが早く半年から1年で収穫できるようです。

今年は試験的に10数本に菌打ちしたので、今秋から来春に収穫できるかも? 結果次第では来年以降、本数を増やしていきたいと思います。

またテレビで見た話ですが、奈良県宇陀市大宇陀ではこの時期にソヨゴの白い花を利用している養蜂家がおられるようです。蜂蜜は透き通っておりかなり甘いそうです。

ならやまでもミツバチが飛んでいるのでソヨゴの蜜を吸っているかもしれませんね。ソヨゴも馬鹿にしないで、秋には赤い実をつけて、きれいなので大切に育てなければいけませんね。



エコファームグループ

◆ 里山畑の思い出と今

森田 展正

私の野良作業の経験は、畑作にある。

火野正平の「こころ旅」ではないが、私の心の里山は、大和盆地の南、山間部にあたる丘陵地の里山畑である。戦後、食糧難のときに親類から畑地を借り、野菜を自給する目的で始めたらしい。周辺には山林、竹藪、溜池などがあり、お寺の鐘と天気の良い時には、遠くに黒煙を吐いて走る蒸気機関車の汽笛と寺の鐘音で時刻を計っていた記憶がある。

野良作業は、耕作、草刈、水やり、施肥を家事手伝いとして行った。当時の作業は現在と異なり、すべてが人力である。自宅から10分ほどの距離にあり、雨上がりに登ると滑りそうになる坂を農機具や肥料などを持って向かった。

今は種苗会社が季節になると苗を販売しているが、当時は種まきから始めた。雨の降らない時は、早朝と日が沈んだ夕方に近くの小川からバケツに水を入れ、畑まで坂を登って行く、つらい作業だった。

耕作していた畑地も鳥獣ネットや電気柵で囲われ、平城山周辺の田畑と同じ問題を抱えている。また、江戸時代に作られた村で、一番大きな溜池も吉野川分水路の完成や農地の減少により、現在、新たな国道のトンネル工事から出る残土で埋め立てられており、寂しい限りである。

農業も年々省力化が進み、農業資材も多種多様化している。気掛かりなことは、この中に多くのプラスチックが使われており、不要となった農業資材がゴミ化している。平城山BCでも見かけるが今世界中で問題となっているマイクロプラスチックと無縁なのか? 杞憂で終わればと願っている。



景観グループ



里山の今

鳥シリーズ 最終回

◆ 里山に鯉のぼり(鯉幟)が泳ぎ、
そして草刈りシーズンがやって来た

越智 健介

旧暦の端午の節句は今年の6月7日だそうなので、この文章を入稿した今の時期に当たるわけです。だから6月に花菖蒲が花を咲かせる時期ということで別名「菖蒲の節句」と呼ばれるのも納得がいきます。

今回上げさせていただいた鯉のぼりは、今まで安全等の問題で、自宅で一度上げただけで、長年倉庫に眠っていました。もう一度雄姿を見たいものだと思っていました。やはり広い場所に悠々と泳ぐ姿は何かうれしいものです。

端午の節句は奈良時代以降に定着したらしく、奈良に起因するものらしいのです。鯉のぼり自体は、江戸時代に武家で始まったとのことですが、奈良に関わるのは、古代中国の「五行思想」に由来した魔除



けである五色の吹流しであることを知りました。飛鳥時代、高句麗から595年(推古天皇)に慧慈(えじ)という人が渡来し、本格的に仏法と陰陽五行思想を日本に広めたということです。まさに奈良は日本文化の発祥地ですね。

【草刈りシーズン到来/ビールがうまい】

二十四節気の芒種(ぼうしゅ)は今年の6/6から夏至6/22の前日までの約15日間で穂の出る穀物の種をまく季節だそうです。雑草を問わず生命の息吹きを見せてくれる時期であり、その前がベストな草刈り時期ということらしい。草刈りは結構ハードな運動になっており、無理をせずに取り組んでも体重1kgくらい減量できそうです。帰宅後飲むビールのなんと美味いことか。まさにこの四季でもベストシーズンです。

【草刈り機不調/キャブの調整必要かも】



エンジンがかからないものも何台かあります。構造を理解して直せるものは自ら直してみたいものです。大抵キャブに問題があるようです。もうすぐ夏です。

◆ ホントに鳥は飛ぶたいのか

小田 久美子

約1万種いる鳥は、獣脚類恐竜の中の2足歩行を始めた「ティラノサウルス」がご先祖様です。

1996年、体長1mの羽根を持った「シノサウルス」(中生代白亜紀前期)が中国で発見されました。でもまだ①体温保存②雄の繁殖活動(例.孔雀)の段階でした。その後進化した鳥を見て人は「楽しそうに飛んでいるな」と羨ましく思ってきましたが、果たして鳥は「飛ぶことが楽しい」のでしょうか。恐竜が絶滅して鳥王国になった後、約60種のヤンバルクイナやキウイ等は捕食者がいない地域では飛ぶことを止める選択をしました。

飛ぶことは大変エネルギーを消耗するので、実は本音をいえば鳥は飛びたくないのです。

身近な鳥「ハト・カラス・スズメ」の同じ個体を追跡調査してみた結果、30分の内、ハト=24秒・カラス=35秒・スズメ=1分15秒。やはりあまり飛んでいません、意外ですね。

飛ぶ最大の理由は、捕食者から逃げるためなのです。飛び易くするために出来るだけ体重を減らす努力をした結果、太らない(脂肪を付けない)、骨を軽くする(中味を空にする)ことに特化してきました。市販の鶏肉で説明します。重力に逆らって飛び上がる時、翼を上げる為に鳥口上筋(ささみ)を、翼を下ろす時の筋肉は、とても力が要るので大胸筋(胸肉)を使います。

最も重要なのが、胸の中央にある竜骨突起(焼き鳥屋の軟骨)、に大きな筋肉が付いています。



地球の多くの生き物の中で、人間と鳥だけに①二足歩行する②声(囀り)と目でコミュニケーションするという意外な共通点がありました。親近感を持っていただけましたか。

「ヘウレーカ」の番組での川上和人先生(鳥類学者)のお話と写真から短く纏めてみました。

今回で鳥シリーズを終わります。ありがとうございました。

5月自然教室だより行事報告

新緑の歌姫街道・佐紀古墳群自然観察会

辻本 信一

当初予定の5月20日の降水確率は50/70%で、申し合わせ通りであれば実施すべきところ、観察会を絶好の条件で楽しんでいただきたいの思いから6月3日に延期し実施させていただきました。

突然の変更でどれだけの方にご参加いただけるか心配でしたが、天候にも恵まれ22名とこれまで以上に多くの皆さまにご参加いただきました。



【参加者の皆さま】

講師にはすでにおなじみの田代貢先生をお招きし、近鉄平城駅を起点に水上池まで、私たちの裏庭とも言える緑豊かな歌姫街道・佐紀古墳群周辺を、途中、添御縣座神社（そうのみあがたにいますじんじゃ）での30分ほどの昼食休憩を挟みながら、朝10時から午後2時半頃まで植物観察を楽しみました。

観察会のはじまりは、途中のお家の生垣のツツジの花の前。田代先生にとっては目にとまるものすべてが教材。合唱団のテノールとして鍛えた良く通る声で参加者全員に聞こえるように大きな声でお話を



してくださいました。【人家の生垣をお借して】

それでは、植物の仕組みやしたたかさ、自然の不思議満載のお話を、紙面の許す限り、以下にダイジェストで紹介させていただきます。

- ・ツツジの蜜標と相性の良い昆虫

ツツジの花の蜜は奥の上側の細い溝にあり長い

口（口吻・こうふん）を持つ蝶との相性が良いが、蝶には花粉が付きにくいので花粉に粘着性を持たせている。

- ・葉のつき方が五角形に見えるウバメガシ
葉の並び方が茎の周りに規則正しく均等に5分割で並ぶので枝先から見ると五角形に見える。

- ・サクランボにもモモと同じ一本の線

どちらも心皮という葉を起源とする組織に包まれた果実を構成。その合わせ目の線が残る。



「花は葉だ！」と

言われるゆえん。【絵にかいて詳しく説明】

- ・マツボックリの鱗片の並び方には法則性
ペンで鱗片の頭をたどると？前回の観察会にも出てきたフィボナッチ数列のお話。自然界の神秘です。ご興味のある方は次回観察会で直接、説明をお聞きください。



- 【ナナミノキ雄花と雌花】 【みんなの視線が一点に】

- ・ケヤキには違った役割を持った2種類の葉種を付けて枝ごと風散布する小ぶりの繁殖葉
光合成を担当する大ぶりの栄養葉

- ・クリとクヌギの葉っぱの違いは鋸歯にあり、クリの棘は二叉分枝(枝分かれ)して伸びている。

- ・イヌビワの葉を食すイシガケチョウ幼虫の戦略
葉っぱの切り口から出る白い汁にはアルカロイド系の毒を含む。イシガケチョウの幼虫は葉元側の維管束を傷つけ花先まで汁が行かないようにして葉先を食す。



【トクサでお遊び】

自然にまつわる感動の話はまだまだ続きますが、やはり、残念ながら、ほんの一部の紹介に終わりました。次回はみなさんご自身の目と耳でご堪能ください。

**6 月月例研修会
柳生の里山を歩こう！**

羽尻 嵩

6月4日(火)、参加者22名。案内役は、富井、太田、羽尻。

柳生街道は、奈良市の市街から柳生まで通じる古道で、戦国時代には、伊賀や甲賀の忍者・隠密が東国と西国の情報を求めて、諸国の武芸者が柳生の剣を求めて行き交った要所でした。

今回は、この街道の途中にある「阪原」のバス停で下車し、柳生町の「剣聖の里」まで歩きました。

脇道に入ると直ぐに「お藤の井戸」がある。



柳生の藩主になった柳生宗矩(むねのり)がここで洗濯をしているお藤を見初めて妻にしたとのいわれがある。折しも、その横では、昔の美人がくつついでおられた。1971年にNHK大河ドラマ「春の坂道」が放映されて観光客でにぎわっていた頃、彼女は峠道で飲物を販売していたとのこと。

田植えを終えたのどかな田園風景が広がる。



難所の「かえりばさ峠」を超えて巨石信仰で有名な天乃石立神社へと向かう。

柳生一带から笠置にかけては、大昔の大爆発で花崗岩の巨岩が多く見られ〔痲瘡(ほうそう)地蔵や一刀石の岩もその1つ〕、古くは天岩戸信仰の天乃石立神社への参拝者を始め、奈良・平安時代には山岳仏教の修行道場として修行者でにぎわっていたといわれている。



正木坂道場の下の広場で昼食をとり、柳生藩の城があった芳徳寺に向かう。芳徳寺には柳生一族の墓が並んでいる。

柳生家は戦国時代に石舟斎が徳川家康の前で新陰流の剣術を披露したことで認められ、その子の宗矩が関ヶ原の戦いで徳川側に付き、その後、秀忠・家光に仕え、一万二千石の大名に取り立てられて栄えることになる。宗矩は仏教の禅の心を教えた沢庵和尚の影響を受け、剣術を「武士道」にまで高めたともいわれている。



最後に「柳生しょうぶ園」を見学した。ショウブの花の最盛期は6月半ばとのことで、今少し迫りに欠けたが、それでも皆さんは、「花菖蒲」と「あやめ」と「かきつばた」の違いを係の方に聞いたりして、園をゆったり見学されていた。

佐保台小学校 田植え体験学習・報告

松本 武彦

さる6月13日、夏を思わせるような青空のもと、今年で12回目となる佐保台小学校5年生の児童による田植え実習が行われました。参加したのは、男子児童13名と女子児童7名の計20名で、約200㎡の水田に、古代米の一種という、モチ米の「さよむらさき」を植えました。

午前10時20分頃、白い体操服に青色の半ズボン、青色の帽子姿の子どもたちが、先生に引率されてベースキャンプへの坂道を下ってきました。「おはようございます」。出迎えた「奈良・人と自然の会」の会員とハイタッチをしながら元気よくあいさつを交わし、水田に向かいました。

畦で靴を履き替えるなど準備を整えた子どもたちは、田植えの雰囲気盛り上げようと、会員が用意した赤いタスキを体操服の上に掛けてもらい、鈴木会長から、

- ・この田植えは、総合学習の一部であり、里山をきれいにする活動の一環として行っていること。
- ・自然は、「子孫から借りているもの」なので、きれいなままで子孫に返さなければならないこと。
- ・真剣な気持ちで田植えをすること。

などの諸注意を受けた後、一斉に植え始めました。



「一株には3本程度の苗が適当」との説明も聞いていた子どもたちは、泥に足をとられそうになりなが

ら、真剣な面持ちで、水田に散りばめられた苗の固まりを指先で小分けしながら、田に引かれたひもの目印に従って植え付け、1時間ほどで全員が完了しました。

この中では、うまく植えられず困っていた仲間を、誰に促されることもなく、先に植え終わった者が手助けに入るという微笑ましい光景も見られました。共同作業を通して学ぶことの多い田植えの場での、温かく貴重なワンシーンでした。

折から、一匹のトンボが飛来して色を添え、しばらく上空を旋回してから水面近くで幾つかの半円を描きながら、やがて周りの景色に溶け込んでいきました。幼少のころがよみがえる穏やかな一瞬です。植え終わった子どもたちからは、

- ・「田植えはおじいちゃんの家でしたことがあります、上手に出来たと思う。」
- ・「田んぼの中の虫などを見られてよかった。」
- ・「最後には泥も気持ちよく感じた。」

などの声が聞かれました。

この後、今後の観察に備え、それぞれの分担区域に名札を立て、豊かな実りを祈願して、全員で田の神に献花をしました。「初めてにしては上出来」と



の講評があり、最後に、会員の吉村さつきさんが懐かしい童謡「田植え」を披露してすべてを締めくくりました。

そろた出そろた 早苗がそろた

植えよう植えましょ みんなのために

米は宝だ 宝の草を

植えりやこがねの花が咲く

思い出された方も多いのではないのでしょうか。

追記：今年から水田北隣の元水田で、陸稲栽培が試みられており、今回植えた水稲との比較が楽しみです。

6月自然教室だより

育英小学校 出前教室 実施報告

辻本 信一

6月10日(月)午前11時より12時半まで、奈良市法蓮町・育英小学校の1年生16名、2年生8名を対象に校庭での自然観察会と自然工作を実施。13名の方にスタッフとしてご協力いただきました。



【校庭に全員集合】

1年生は昨年同様、①カタバミ(三つの魔法) ②クロガネモチ(字が書ける葉っぱ) ③ヤツデ他(面白い葉の形)をテーマに校庭で植物観察。

初めての校庭観察会で、どの子も興味津々、目を輝かせてしっかりと耳を傾けてくれました。



【魔法の葉っぱ】



【ミラーウォーク】

2年生は、①ロープでかたどった2m径の丸の中に幾種類の野草が見つかるか?「草いくつ」 ②ミラーウォーク(不思議な散歩) ③イロハカエデ(プロペラ飛ばし)を行い、「自然遊び」を通じ自然について学びました。



【自然工作に夢中】

教室では1年生・2年生合同で、例年大好評のカタバミの10円磨き。自然工作では自由な発想でのストラップ作りに子どもたちのアーティスト魂さく裂。ペンダントとは名ばかりに立派なタワーを作ってしまう子まで出現。その発想の豊かさにたくましさを感じこちらの顔もほころびます。独創的な可愛い作品が次々に生み出され子供たちの感性につくづく感心させられた一日でした。

今回は是非皆さまもご参加ください。

佐保台小学校 放課後子供教室 実施報告

6月12日(水)、午後2時半より午後4時まで、佐保台小学校にて、令和の年を迎えはじめての放課後子供教室「校庭の自然観察会と自然工作」を実施しました。

昨年は悪天候で、雨バージョンで実施した室内の自然遊びも、今年は晴天に恵まれ校庭での実施。

当日の参加者は1年生から6年生までの62名。当会スタッフは12名でしたが、先方コーディネーター・見守り隊のお母さま方9名もそこに加わっていただき、



お手伝いいただきました。【スタッフ紹介】

校庭ではそれぞれ10人前後の6班が、Aグループ、Bグループの2グループに分かれ、各グループ3班ずつが3つのポイントを10分ずつ順序良く回ってくれました。

各ポイントでは、①カモフラージュ(アベリアの生垣に隠した物探し) ②草カルタ(実際の野草を写真の説明を聞きながらカルタ代わりにカルタ取り) ③ミラーウォーク(不思議な散歩)を実施。



【カモフラージュ】 【草カルタ、何枚とれた】

教室では、恒例のカタバミの10円玉磨きに引き続き、こちらでも自由発想のペンダント作り。

用意した見本はあくまでも参考、色とりどりの独創的な可愛い作品が次々に生み出されていきます。子どもたちの顔も得意満面。こちらもうれしくなってきました。

子どもたちと自然を楽しみ、子どもたちの素顔に触れることのできる放課後子供教室、次回は皆さまもご参加ください。



【ヤッター! イェーイ】

6 月自然教室だより行事報告

初夏の大和民族公園自然観察会

辻本 信一

今月は5月開催予定の歌姫街道での自然観察会が6月にずれこみ、今回6月17日に実施した大和民族公園での自然観察会とあわせ2件目の報告となりました。



【にこやかに朝の集合】

当日は猛暑を予想し9時半に開始を早めました。薄曇りのおだやかな観察日和にめぐまれ、前回に引きつづき田代先生の案内を楽しみに19名がつどいました。



【絶好の観察日和】

今回の観察会は公園内ということもあり、車の出入りがまったくなく、一団の移動もスムーズにいき、先生の説明にも安心して集中できました。

ただし、昼からの気温上昇もあり、30分ほどの昼食時間をはさみ午後2時までの観察会といたしました。その間に説明を受けた植物は30種以上にもおよび、すべての紹介はできないまでも、今回も目からウロコのお話を、紙面のゆるすかぎり以下にご紹介させていただきます。

- ・ハナミズキの葉の導管（どうかん）の一工夫
水分蒸散にともない葉の導管には負圧がかかる。その負圧にたえるようミズキ科の植物の葉の導管には掃除機のホースのようにらせん状の補強がはいる。（図・顕微鏡写真を使って説明）
花びらに見えているのは苞葉（ほうよう）先がへこんでいるのはツボミの時のなごり。
- ・セイタカアワダチソウの葉の配列
前回も説明を受けた葉の規則的なつき方の話。
フィボナッチ数列（1/2、1/3、2/5、3/8、5/13、...）のように左隣の2つの分数のそれぞれの分子・分母を足し新たな分数を作っていく数列）の法則にしたがう葉のつき方を一枚一枚の葉を数えていきながら確認。

数えてびっくり、確かに5周目の13枚目に同じ位置の葉がありました。

- ・ホタルブクロの性転換？
キキョウ科の花のツボミの時期は雄しべが花粉を出しはじめる雄の時期、開花後徐々に雌しべが柱頭を伸ばし雌の時期をむかえる。自家受粉を防ぐための自然の知恵。
いわく、雄性先熟（ゆうせいせんじゅく）。



【葉のつき方説明】 【ホタルブクロの性転換？】

- ・ユリノキの葉っぱのマトリョーシカ
葉っぱの新芽をまもる托葉（たくよう）に注目。外側の托葉をはがしていくと次々と葉の新芽と托葉が金太郎アメのごとく出てきます。まるでロシアのマトリョーシユカ。ここで、田代先生から質問。同じように玉ねぎの皮を最後までむいていくと何が出るでしょう？（答え：涙）
- ・キキョウソウ（ダンダンキキョウ）の種散布
種を遠くまで運ぶのに風をたよる植物はできるだけ高いところから実を散布する工夫をする。キキョウソウではビーナスの姿見とよばれる部分の窓が結実後開きそこから種がこぼれる仕組みになっているが、類似種のヒナキキョウソウの穴の位置より低い。それはなぜか？その理由は、種子の下には連座のごとく軸の周りを囲む形の葉がついており、それが受け皿となり風に飛ばされる2段構えの仕組み。



【ユリノキの托葉】 【キキョウソウの風散布】

田代先生にとっては、目につくものすべてが教材。その話題の豊富さに参加者全員が感心しきり、それぞれが熱心にメモをとられておりました。
次回はみなさんも是非仲間入りしてください。

ならやまトーク・投句 新緑編

《ならやまの田植教室》

顔に泥赤い襷の子ら田植

藤原 勲

(佐保小5年生二十二人の田植授業。赤い襷も凜々しくいざ出陣。田圃に元気な声が響き、ならやまの年寄りが大いに張り切る)

アメンボウ泥田の足の先をゆく

岡田安弘

(目の前をアメンボウが走る。思わず延ばす手の先をスイスイと)

里山に響く昭和の田植え唄

鈴木未一

(古き代と今を結ぶ田植え唄、吉村さつきさんの美声に聞き惚れる)

田植終え泥が隈取る笑顔かな

古川祐司

(田植え終了。よく頑張った。見交わす顔に泥の模様が笑っている)

田の神に供へし花や青田風

古川祐司

(田の神様に豊作を祈って終了。爽やかな風が田圃を吹き抜ける)

夕暮れの畔に一籠余り苗

藤原 勲

(田んぼには佐保小の看板と児童の名札が立つ。いい一日の残像)

《ならやま点描》

プレゼンに理念山盛り梅雨晴れ間 鈴木未一

(花王「みんなの森づくり」助成目録贈呈式でのプレゼンテーション、選り抜かれた団体の代表者の決意がほとばしる)

投句歓迎(古川まで)

夏時間早出残葉思い出し

岡田安弘

(エコ班はナスの芽かきが遅れている。終礼後も居残りです本仕立てに取り組む。お疲れさん)

玉ねぎの山に人群れ昼下がり

坂東久平

(採れとれの新玉葱の山・・・殺到する人人人。毎度ありい)

薰風や極楽浄土の余り風

中井 弘

(薰風の心地よさにここに極まる、楽の音まで漏れてくる気分でしょうか)

何恋うてひねもす鳴くや杜鵑

西谷範子

(そばの里山で、ほととぎすが一日中鳴いている。夜も鳴き続ける様は、夏を待つ鳥のじれったさかとも)

補聴器に杜鵑一声山静か

古川祐司

(鳥の声を聴きたいと求めた補聴器、実りの森で杜鵑の初鳴きをキャッチ)

新緑や伸びる遍路の白き列

八木順一

(目に染みる新緑は茶畑か、一列に進むお遍路の列。鮮烈なイメージの句)

一夜明け満面の笑み白牡丹

小山喜与男

(丹精の牡丹、待ちに待った満開の早朝。満面の笑むは花? それとも人?)

廃屋の庭に鳧の巢抱卵中

戸田博子

(廃屋に自然が復帰。ほら、ケリが卵を温めている。そっと見守る)



木村 裕

カブトムシ飼育

秋になると、堆肥の中から丸々と太ったカブトムシの幼虫が見つかりますが、飼育して成虫にまでもっていきませんか。

飼育方法はいたって簡単で、特別な道具や餌はいりません。ちょっとした注意をするだけで元気な成虫が現れます。私の失敗談を含めて飼育方法を紹介します。

容器：ふた付きポリバケツ
 理想としては50リットルバケツ、これで20～30頭は楽に飼えます。
 餌：カシ、ナラなどの落ち葉、堆肥。
 ただし、4月以降は落ち葉。
 保管場所：日が直接当たらないところ
 陽が当たると中は蒸し風呂状態になり、虫は死んでしまう。

捕まえた幼虫を餌とともにバケツの中に入れて飼育します。水分の投与はまったく不要です。

ポリバケツの蓋は、きちんと蓋をすると内部は酸素不足となり、幼虫は窒息して死んでしまいますので、わずかに隙間ができるようにします。50リットルバケツでは蓋を固定するための突起部分がありますので、その上に蓋をずらして置くと少し隙間ができ、カブトムシにも喜んでもらえます。



餌は若干湿り気を帯びた落ち葉、木くず、堆肥

など。幼虫は大食いですので餌の補充には気をつけてください。いつのまにか落ち葉などが虫糞に置き換わっていますので、ときどき手を入れてかき混ぜて餌の有無に注意が必要です。しかし寒い冬季間は眠っていますので餌は減りません。

幼虫が活動を再開する4月には、思い切って中身をぶっちゃけて新たな落ち葉に入れ替えます。ミミズや他のコガネムシの幼虫がいると、成虫になるときに悪影響があり、羽が正常に伸びない個体(奇形)が増えますので、落ち葉のみ入れてください。堆肥にはミミズがいっぱいいますので使わないように。

幼虫は土のようになった自分の糞と食べかすの落ち葉を使ってラグビーボール型の空洞を作ってその中で蛹になります。4月以降もよく食べ、よく糞をしますので、材料不足にはなりません。ただし、ミミズがいると蛹に対して悪さをすることで、4月以降の餌にはミミズを混ぜ込まないように注意。



新しい成虫になってもしばらくは蛹時代の穴倉にじっと滞在し、外に顔を出すのはかなり遅れます。早くても7月初め以降、大半は中旬以降で、遅い個体では7月末になります。

私の失敗談は、バケツの蓋をきっちりしたことでした。まさか完全密閉状態になるとは予想だにしませんでした。バケツ内部は酸素不足に陥り、ミミズが軍団となって壁面を這いあがってアップアップしていました。壁面いっぱいミミズがへばりついているのは異様な様相でした。大事なカブトムシの幼虫は落ち葉表面に現れて氣息奄々の状態になっており、あわてて酸素吸入を施しましたがみんなお亡くなりになりました。

パトロールグループの生い立ち

植生調べから始まった

パトロールG誕生までを振り返って

守口 京子

パトロールGがどのようにして生まれ、どのような過程を経て現在の活動をするようになったのか、記憶と記録をたどってみました

1. 2007年春～2009年7月

ならやまでの里山整備活動は2007年の春から始まりました。当初は十人程度でしたが、みんなで里山林内を歩き回って植生を調べながら、既存の道を生かしてどのように道を作ればいいのかを考えました。それはいわゆるパトロールの走りだったのではないかと思います。県から委託されたのは7haの現「ならやま里山林」だけでしたが、藪とつる草に覆われ、歩き回るだけでもとても大変でした。でも毎日どんなものに出会えるか、期待が膨らむ活動でした。藪刈り、ごみ撤去、さらには畑づくり、「森の健康診断（植生調査）」と全員で取り組みました。

2. 2009年8月～2011年春

会報の「ならやま花だより」というコーナーを担当することになり、月に1,2回は必ず植物観察に回ることにしました。季節の草木の開花情報を伝えることが主でしたが、シダやキノコのこともし書きました。私の力作はHPの会報をご覧ください。このころはまだパトロールという言葉はありませんでしたが、すでにその活動の一部をしていたこととなります。山に入って里山整備を行う前にその周辺に希少種がないかどうか確認しに行くことも私の役目でした。

3. 2011年春～2012年秋

このころ活動領域は「ならやま里山林」だけでなく、「ならやま自然の森」にも広がっており、そのパトロールを担当することになりました。

「ならやま里山林」の方は木を切るなど人の手で整備をして、薪やシイタケ栽培ができるようにしたり、イベントでの遊びや学習にも使えるようにして、常時有効に活用することを目標にしています。一方「ならやま自然の森」は元のままの

森の姿を維持するため人の手はなるべく加えず、観察路など必要最低限の整備だけを行うという方針でした。そのため、「ならやま里山林」はいつも人が行き来するので特別にパトロールは要りませんでした。担当は私1人で、見て回った結果を記録用紙に書いてファイルに綴じて物置小屋の所定の場所に保管するというものでした。記録用紙は当時のならやまプロジェクト担当幹事の古川さんが作成されたもので、名称は「ならやま自然の森パトロール記録」でした。ここで初めてパトロールという言葉が出てきました。

当時の記録用紙を見ると、雨や汗がしみこんで判読困難な部分もあります。第1回（2011年5月）から第31回（2012年9月）まで、月2回程度の「パトロール」を行いました。参加者は私1人だけの時もあれば2人～10人以上の時もありました。現在の会員の中にも当時パトロールに参加された方がおられます。観察路の整備状況のチェック・報告、希少植物の保護、季節の観察路の様子を紹介、そして新入会員やシニア自然大学学校教育実習生の案内が主な内容でした。

4. 2012年秋から2013年春

せっかくの「ならやま自然の森パトロール」も、パトロール結果が会員に伝わりにくい、1人でのパトロールは安全面で問題、自然の森以外もパトロールが必要（5地区に拡大）などの問題を抱えるようになりました。そこで新しい体制を作ることになり、ならやまパトロール隊のメンバーを募集、チームが編成され、2012年11月、12月と話し合いや下見を重ねたうえで、2013年1月から改めてパトロール活動を開始しました。のちに名称がパトロール班、パトロールGとなり、メンバーも多少入れ替わりましたが、これが今の活動につながっています。

5. それから今まで

それから数年、紆余曲折がありましたが、1人担当の時とは雲泥の差で、メンバーが意欲と知恵を結集してパトロール活動に努めており、観察路は見違えるようです。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動予定日

7月	4 (木) 11 (木) 18 (木) 25 (木)
8月	1 (木) 8 (木) 15 (休) 22 (木) 29 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前8時

◆終了予定：午後1時（夏時間）（9時）

◆アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分

② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統

8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統

8：36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



◆連絡先：八木 順一

里山

7/4 協働活動・アダプトプログラム

11

里山林内の整理／薪割り

薪材の玉切り・運搬／下草刈り

18 25

里山林内の整理／薪割り／下草刈り

*ユートピア：松山平の松整備終了次第
森林資源実験区を整備予定

エコファーム

7/4 協働活動・アダプトプログラム

里芋、サツマイモ、茄子、唐辛子

ピーマン除草 追肥

11

茄子、唐辛子、ピーマン 剪定

陸稲、水田（コナギ）／水田、畑周り草刈り

18

水田 土用干し 除草（コナギ）

ポカシ肥料作り／枝豆収穫

25

水田、里芋、湛水、南瓜、西瓜

青瓜、黄瓜、ズッキーニ収穫

*果樹：水やり、草刈り、収穫、剪定（7月中）

*蕎麦：南瓜畑手作業／他刈払い機除草

景観

蜜蜂：巣箱周辺草刈り

7/4 協働活動・アダプトプログラム

整備：彩りの森周辺の草刈り整備

ビオ池：西池生物調査

花：ヒマワリ、千日紅の移植／柵更新、名札立て

11 整備：佐保自然の森草刈り整備

ビオ池：池整備

花：風船唐綿、花ナスの移植／柵更新、名札立て

18 整備：BC 周辺草刈り整備

ビオ池：池整備

花：花畑全般の施肥、草取り

25 整備：実りの森草刈り整備

ビオ池：西池生物調査

花：山野草園の草取り整備／柵作り、名札立て

パトロール

7/4 協働活動・アダプトプログラム

丸太階段補修木杭打ち／笹草刈り／ミーティング

メイン階段工事 2 コースパトロール

11 丸太階段補修木杭打ち／笹草刈り

メイン階段工事 3 コースパトロール

18 丸太階段補修／笹草刈り／メイン階段工事

イベント準備 4 コースパトロール

25 丸太階段補修／笹草刈り／メイン階段工事 1

行事案内 part 1



7月歴史研修会ご案内

唐古・鍵遺跡から纏向遺跡へ

田代 一行

- ・日時：令和元年7月24日(水) 雨天実施
- ・集合場所：JR 三輪駅改札口 9時10分集合
- ・交通機関◎近鉄西大寺駅(急行)8:05→天理駅
8:27着・JR線乗り換え8:51→三輪駅9:02着
- ◎JR奈良駅8:35(直通)→三輪駅9:02着
- ・持ち物：弁当 飲み物 雨具(帽子・日傘) 敷物
- ・行程：JR 三輪駅→桜井市埋蔵文化センター→箸墓古墳→纏向遺跡→JR 巻向駅→桜井駅・近鉄線乗り換え・八木駅経由・田原本駅→考古学ミュージアム見学後解散(16:00予定)→田原本駅
- ※希望者のみ唐古・鍵遺跡を見学(徒歩25分)
- ・申込：事務局 青木幸子
- ・世話人：中井弘・田積彰男・田代一行

◆今回は纏向遺跡から唐古・鍵遺跡を巡ります。奮ってご参加ください。

- ・三輪駅から弥生時代から古墳時代の纏向遺跡の出土品が展示されている桜井市埋蔵文化財センターに行き、発掘に携わった学芸員の解説を予定。
- ・纏向遺跡(国史跡)はまだ中枢部の内容は不明ながら、大和政権成立時の宮都の可能性が高く、考古学的には古代国家の出現過程を最も示す遺跡として重要で、邪馬台国説もある地。
- ・箸墓古墳は邪馬台国の女王・卑弥呼の墓との説もあり、わが国において、最も著名な古墳の一つで前方後円墳。現在は宮内庁によって第七代孝霊天皇皇女、倭迹迹日百襲姫の「大市墓」に治定、纏向古墳群で最大の古墳を巡る。



- ・唐古・鍵遺跡(国史跡)は弥生時代のヤマト政権の礎となる唐古・鍵遺跡の出土品が展示されている「唐古・鍵考古学ミュージアム」へ行き、弥生時代の集落の様子を解説付きで学びます。



「土星」の不思議

坂東 久平

土星から連想するのは、ドーナツ状の環ですね。土星の探査機の歴史は、1979年のパイオニア11号、次がボイジャー1号(1980年)、2号(1981年)で、環と衛星の高精度な写真を撮りました。

2004年に探査機カッシーニが周回軌道に入り、搭載されていた惑星探査機ホイヘンス・プローブを、衛星タイタンに着陸させたりして数多くの観測データをもたらした。タイタンが地球のように雨や川、湖、海を持つ世界であることを発見。(大気の主成分は窒素(97%)とメタン(2%)であり、液体メタンの雨が降り、メタンおよびエタンの川や湖が存在する)

土星は巨大ガス惑星に分類されるが、すべてガスで構成されている訳ではない。惑星成分のほとんどを占める水素は、密度が高くなると非理想溶液となり、更に惑星内部で温度・圧力・密度が高まり、水素は相を変えて金属様になる。大気の主成分は、水素(93%)とヘリウム(5%)である。

土星には64個の衛星(うち3個は不確実)および12本の環(不確実)と6本の隙間が発見された。



土星の環は、発見された順にアルファベットの名前が付けられており、メインリングは、内側からD環(最も土星に近く暗い)C環、B環、A環およびB環とA環の間のカッシーニの間隙で構成されている。その外側にF環、さらにその外側には、非常に薄いG環とE環がある。

環は、最も薄いところで約10m、最も厚いところで約1kmと推定されている。99.9%が純粋な水の氷の粒子である。

氷の粒子は、土星本体へ雨のように降り注いでいるため、環はいずれなくなってしまう運命にある。最新の研究によると、1億年以内に環が消えてしまうかもしれない。

行事案内 part 2



「山もり・てんこ森」

山・川・海の恵みを未来へ

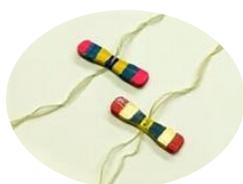
羽尻 嵩

平成 26 年に奈良県で「第 34 回全国豊かな海づくり大会～やまと～」が開催されました。この大会理念は、「山と川 の恵みに感謝する」で、その後毎年奈良県各地で啓発イベントが開催されてきました。

当会も、子供たちを対象とした 7 月のイベントに毎年「自然工作指導」として参加してきましたが、本年も参加することにしました。

当日、自家用車何台か出して現地に行きますので、会員の方はスタッフとしてご協力ください。

1. 主 催：ポスト「全国豊かな海づくり大会イベント実行委員会」(奈良県農林部森林整備課内)
2. 日 時
令和元年 7 月 15 日 (月・祝) 10:00~15:00
3. 会 場
奈良県森林技術センター (高市郡高取町吉備 1)
昨年度とは別会場になります。
4. 内 容



自然工作指導・・・
「ブンブンゴマ」と
「のらくろストラップ」
各 100 セット。

夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①

中川 徹

1. 日 時
2019 年 7 月 20 日 (土) 9:00~14:30
(雨天の時は 7 月 27 日 (土) に延期)
2. 場 所
ならやまベースキャンプ周辺
3. 募集要項
参加者人数：県内在住の小学生 30 名
(保護者を含めて 60 名程度と想定)
参加費：一人 500 円
受付期間：7 月 1 日～7 月 14 日
4. イベント内容
図録を利用した自然観察 (昆虫・植物)
飯盒炊飯、里山遊びをする。
カレーの調理はスタッフがする。
図録を参加者全員に貸し出し、ならやまの昆虫、植物の観察、採集をし、名前を知る楽しさを体験してもらう。
(図録購入希望者には 500 円で販売)
暑さに対する注意を怠らず、状況により内容変更、時間短縮をする。
5. スタッフ 40 名募集
6. 担当幹事：中川徹、三瀬、太田



8 月ならやま活動 & 行事予告

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> * ならやま活動 (木) 1 日 協働活動日 24 日 夏だ！休みだ！里山で遊ぼう② * 月例研修会 夏季研修会 4 日 明石海峡大橋登頂 | <ul style="list-style-type: none"> * 自然教室 19 日 燕の埒入り観察 (平城旧跡) * その他 10 日 ぼらカフェ (ボランティアセンター) |
|---|---|

令和元年・6月度幹事会報告

日時：5月28日(火) 14:00~16:45

場所：奈良市中部公民館

出席者：20名、欠席者：3名

(議事録よりトピックスのみ)

I 会長挨拶

・図録配布

国立国会図書館への寄贈2冊

新聞報道等もあり入手希望がきている。

II 事務局・会計報告

・会員数：170名(退会：1)

個人情報保護の観点から名簿は配布しない。

・4月度会計報告

III 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

・役員の役割分担変更(詳細はメール配信済み)

副会長に富井氏就任し4名体制に。

ならやまプロジェクト委員長は富井氏に。

会計担当に中川(徹)氏就任し3名体制に。

広報担当は千載氏に。エコ担当は吉川氏に。

・救急対応マニュアルの検討

名札裏側への救急時必要個人情報の記入徹底

・3か月と当月スケジュールの検討と確認

・ならやまプロジェクト関係

*詳細は、メール連絡、またはHPに記載

・山もりてんこ森、里山で遊ぶの実施要領

図録活用研修会の実施を検討する。

IV 企画・助成金関係

・各種助成金の申請検討

V 喫緊・提案事項

・学習支援のならやまフィールドの活用について
意見集約後に方針を決定する。

VI 広報関係

・会報誌7月号編成案承認(18ページ)

・「里山の今」は各G活動にこだわらない自由な
内容で「気軽」に執筆を。

VII 報告・連絡、その他

・活動報告と予告：詳細は会報誌掲載

佐保台小田植えは南側のみで実施

・7月度幹事会 6月25日 以上

◆ 申し合わせ ◆

*通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報(奈良気象台17時発表)で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。

お問い合わせ:八木

*通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

*臨時活動日を月曜日にすることがあります。
(事前に担当役員から連絡します。)



◆次世代へ

2015年6月に、現会長鈴木氏の後を受けて、5代目の編集長を担当し、7月号で通算50号となりました。

質実剛健、会員の多くの皆さまに誌面参加をしていただき、読みやすい会報誌となるような編集を目指して参りました。皆さまにはたくさんのご協力を頂き感謝しています。

現役時代に先輩から色々な教訓を頂きましたが、その中で大事にしてきたことがあります。「係長、課長、部長となったときに、一つ上の役職者の立場で物事を考えなさい」「自分の後継者の育成をすぐに始めなさい」でした。何れも簡単にできることではありませんが、それなりに努力をしてきました。

広報を担当し、会報誌とホームページについて、後継者の目処が立ち、次世代に期待をするところです。
(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第210号

発行：奈良・人と自然の会

URL：<http://www.naranature.com>



編集チーム：青木(幸)、青木(芳)

千載、澤田、田代、戸田、山崎、坂東

表紙写真「西池での水生生物調査」

有機栽培に徹する里山では本来の淡水池に生息する生物が・・・(5月23日)